

友達へのよりよい関わり方を考えよう 「ふわふわ言葉とちくちく言葉」

小学校第3学年 学級活動

1 題材設定の理由

- (1) 活動内容・項目
 - (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
イ よりよい人間関係の形成
- (2) 題材設定の背景及び児童の一般的な実態と現状

小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編

＜第2章第2節 特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義＞より引用

第3学年になると、集団における個々の結びつきや集団としての閉鎖性が次第に増え、協力して豊かな学級生活をつくらうとする小集団による活動が盛んになる。また、この時期は、集団感情や集団意識が強くなってきて、いわゆる「われわれ意識」などの社会意識が高まってくる。しかし、指示する者とされる者が次第にはっきりしてきて、それぞれ的小集団が分立し、集団同士の対立や集団に安易に賛成するような行動も見られるようになってくるなど、学級全体としてのまとまりが育ちににくい時期でもある。集団活動を行うにしても、それぞれの集団での活動目標について、ある程度共通に理解し、持続して活動することができるが、まだ、個人的な興味・関心や要求に動かされることが多く、その集団に所属する成員の間にはっきりとした社会的関係があらわれにくい。

2 指導目標

授業と「友達と関わる学習」を通して、日常的に使っている言葉が、相手を悲しい気持ちにさせるものなのか、うれしい気持ちにさせるものなのかを考えさせ、友達へのよりよい関わり方を身に付けさせる。

3 指導法・指導上の留意点

事前指導では、相手を悲しい気持ちにさせる「ちくちく言葉」と相手をうれしい気持ちにさせる「ふわふわ言葉」があることを児童に知らせ、日常的に児童が使っている言葉の中にはどんな「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」があるのかを、児童と学級担任とで分類する。また、児童が生活の中で意識して「ふわふわ言葉」を使っていけるように、事前指導で用いた資料を学級に掲示する。

本時では、事前アンケートの結果から、クラスの友達が相手から言われた「ちくちく言葉」や「ふわふわ言葉」に対してどんな感情を抱いているのかを把握させる。「ちくちく言葉」を言われることで悲しい気持ちになっている実態と、「ふわふわ言葉」を言われることでうれしい気持ちになっている実態を把握させることで、今後は「ふわふわ言葉」をもっと使っていきたいという児童の意欲を引き出していく。また、複数の場面を例示し、場面に応じてどのような言葉かけを行っていけばよいのかを考えさせ、考えた言葉のかけ方をソーシャルスキルトレーニングとして練習させる。「ふわふわ言葉」を言われたときの気持ちを学級で共有することにより、よりよい「ふわふわ言葉」の使い方を日常生活で意識できるようにする。

事後指導の「友達と関わる学習」では、励ましたりほめたりする場面での「ふわふわ言葉」を使った言葉かけを練習させることで、よりよい言葉のかけ方をさらに意識して生活できるようにしていく。

4 指導計画

(1) 事前・事後指導

- ＜事前指導＞ 事前アンケートを実施する（実態調査）。
担任による「ふわふわ言葉とちくちく言葉」を分類する授業を行う。
- ＜本時＞ 学級活動「ふわふわ言葉とちくちく言葉」の授業を実施する。
- ＜事後指導＞ 「友達と関わる学習」を実施する。

(2) 教科指導等との関連

道徳：内容項目－10 友情・信頼
友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

5 本時の指導
 (1) 指導過程

本時のねらい		場面に応じた「ふわふわ言葉」の使い方を考えることを通して、「ふわふわ言葉」を使うことよさを理解することができる。		
段階	活動	活動の内容	指導上の留意点	【評価】・ ◇資料
導 入	アイス ブレイク 【5】	(1)「ほめほめじゃんけん」をする。	○ペアでじゃんけんを行い、じゃんけんに負けた人が勝った人のよいところを見つけてほめる。ほめられたら互いに「ありがとう」と言って別れ、次のじゃんけんの相手を探す。 モデリングを通して、いろいろな人とほめ合うことを伝える。	
	課題 把握 【5】	(2)事前アンケートの結果をもとに話し合う。 ・「ちくちく言葉」でいやな気持ちになった友達がいるんだな。 ・「ふわふわ言葉」でうれしくなった友達が多いな。 (3) 本時のめあてを設定する。 「ふわふわ言葉」をつかってみよう。	○事前アンケートの結果を提示し、結果から「ふわふわ言葉」を使うことよさに気付かせる。 ○「ふわふわ言葉」を使っていきたいという児童の意欲を引き出し、本時のめあてにつなげる。	◇掲示物 (アンケート結果)
展 開	モデ リング 【5】	(4)教師のモデリングを基に友達の気持ちを考える。 ①「ちくちく言葉」を言われた友達の気持ちを考える。 ・悲しい気持ちになる ②同じ場面での「ふわふわ言葉」を言われた友達の気持ちを考える。 ・「上手にかけたね」って言えばいいと思う	○掲示物（友達が絵を見せてきたとき）を提示することで、児童に設定場面を理解させる。 ○教師がモデリングを行い、同じ場面での「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」を言われたときの相手の気持ちを話し合わせる。 ○考えを児童に発表させることで、全体での共有を図る。	◇掲示物 (教師用モデリング資料)
	リハ ーサル 「ふわ ふわ 言葉」 を使おう 【20】	(5)場面に応じた「ふわふわ言葉」の使い方を練習する。 ①一番遅くゴールした友達への言葉かけを考える。 ・大丈夫?がんばったね。 ②重そうな荷物を持っている友達への言葉かけを考える。 ・手伝おうか? ③はじめて二重跳びができた友達への言葉かけを考える。 ・すごいね!	○場面に応じた言葉かけを考え、ワークシートに記入させる。 ○考えた言葉のかけ方をペアで練習させる。 ○友達に言葉をかけてもらったときに、どんな気持ちになったかを互いに伝え合わせる。 ○よりよい言葉かけを考えている児童を抽出し、教師とのモデリングを通して全体で紹介する。	◇ワーク シート 【評価2】
終 末	振り返 り 【10】	(6)本時の活動をふりかえる。 ・これからも「ふわふわ言葉」を使っていきたい。	○児童一人一人に本時の学習活動を振り返らせるため、振り返りカードへの記入の時間を十分にとった後で、全体での振り返りを行う。	◇振り返り カード 【評価1】

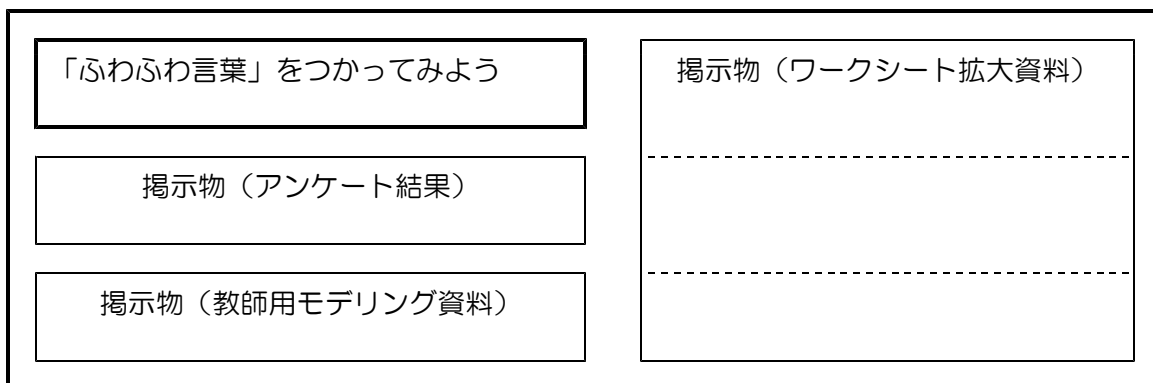
(2) 評価計画

【評価1】	【評価2】	【評価3】
知識・技能 ＜本時＞	思考力・判断力・表現力等 ＜本時＞	学びに向かう力・人間性等 ＜友達に関わる学習＞
「ちくちく言葉」を言われていやな気持ちになっている友達がいることや、「ふわふわ言葉」を使うことで、自分も相手もよい気持ちになることが分かる。	場面に応じた「ふわふわ言葉」のよりよい使い方を考えることができる。	友達に対するよりよい言葉の使い方を、今後の生活に生かそうとしている。

(3) 準備物

- ・ 掲示物（アンケート結果）
- ・ 掲示物（ワークシート拡大資料）
- ・ 振り返りカード
- ・ 掲示物（教師用モデリング資料）
- ・ ワークシート

(4) 板書計画



6 事後指導（友達と関わる学習）

- (1) ねらい
ソーシャルスキルトレーニングを通して、友達へのよりよい言葉のかけ方を身に付けることができる。
- (2) 場所
教室
- (3) 時間
毎回5分程度

(4) 学習計画

回数	活動の内容	○指導上の留意点
1	◇学活の授業の「ふわふわ言葉」を、「ほめ言葉」と「はげまし言葉」に分類する。	○本計画の3回目と4回目の学習活動において、児童が適切な言葉を友達におくれるようにするため、学級全体で「ほめ言葉」と「はげまし言葉」を色で分類し、視覚的にとらえられるようにする。 ○新たに見つけた「ふわふわ言葉」については、その都度、模造紙に記入していく。 ○振り返りカードに自己評価させる。
2	◇「上手な聴き方」を行う。	○教師が話を聴くモデリングを行う。 ○ペアで交互に「わたしの好きな物」について30秒間話をさせる。聴き手の児童に、視線を合わせたり、うなずいたりするなど、上手な聴き方を体験させる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
3	◇「ほめ言葉」をおくる。	○教師が「ほめ言葉」をおくるモデリングを行う。 ○ペアで交互に、「最近がんばったこと」について話をさせる。聴き手の児童に気持ちを込めて「ほめ言葉」をおくる体験をさせる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
4	◇「はげまし言葉」をおくる。	○教師が「はげまし言葉」をおくるモデリングを行う。 ○ペアで交互に、「最近失敗したこと」について話をさせる。聴き手の児童に気持ちを込めて「はげまし言葉」をおくる体験をさせる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
5	◇これまでの活動を振り返る。	○振り返りカードを見ながら、気付いたことや考えたことを記入させる。 【評価3】

(5) 準備物

- ・ 「友達と関わる学習」振り返りカード